

敦賀発電所1号機の定期検査の状況について (中央制御室換気空調系外気取り入れダクトの腐食の調査状況について)

敦賀発電所1号機(沸騰水型軽水炉:定格電気出力35.7万キロワット)は、平成20年11月7日から第32回定期検査中ですが、平成20年12月11日13時45分頃、中央制御室換気空調系^{※1}の送風機試運転時に換気系室の点検を行っていたところ、当該系統の外気取入れダクトに腐食孔(2箇所)が確認されました。

当該系統は、実用炉規則^{※2}での安全上重要な設備に該当し、この系統に要求される必要な機能(外気との隔離)を満足していないと判断しました。

なお、現在、原子炉は冷温停止中であり、本事象が原子炉の安全上に影響を与えるものではありません。

本事象による周辺環境への放射能の影響はありません。

※1: 中央制御室換気空調系

通常は外気を取り入れて中央制御室の換気を行うが、大気への放射能放出事故発生時には事故が収束するまでの間、運転員がとどまって監視や操作が行えるように、外気の入力を遮断し、中央制御室の空気をフィルターを介して内部循環させる系統。

※2: 実用発電用原子炉の設置、運転等に関する規則

(平成20年12月11日 発表済)

当該部ダクトについて、腐食孔が確認された周辺部を点検したところ、新たに5箇所で線状の腐食孔(最大長さ約13cm)が確認されました。

応急措置として、腐食孔の認められた箇所について、ダクト全周にわたり金属カバーで覆い、外気が直接送風機に吸い込まれないようにしました。

その後、腐食孔の確認されたダクトの詳細な調査を実施するため、当該ダクトを取り外し、仮設ダクトを設置しました。

今後、腐食孔の確認されたダクトについて、詳細な調査を実施いたします。

また、引き続き、ダクトの他の部位に異常がないかを確認いたします。

添付図: 中央制御室換気空調系 系統図

(参 考)

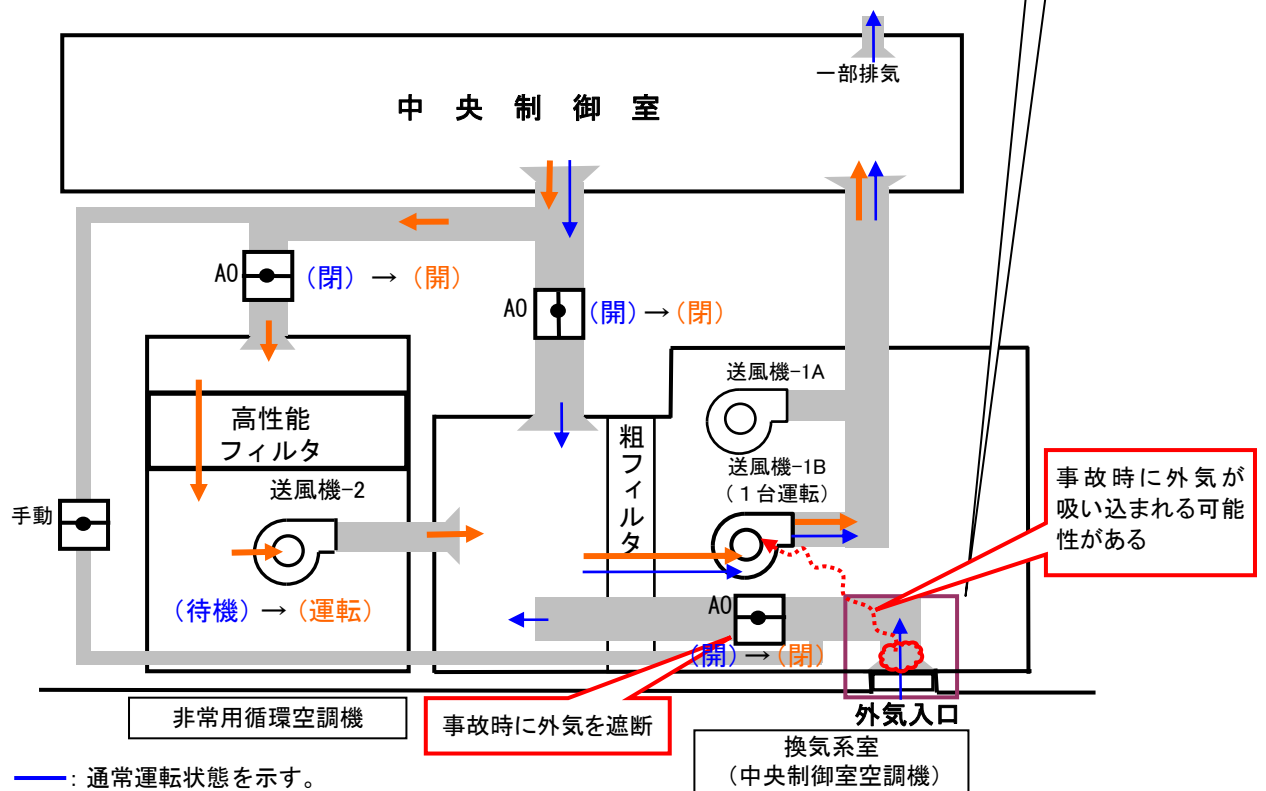
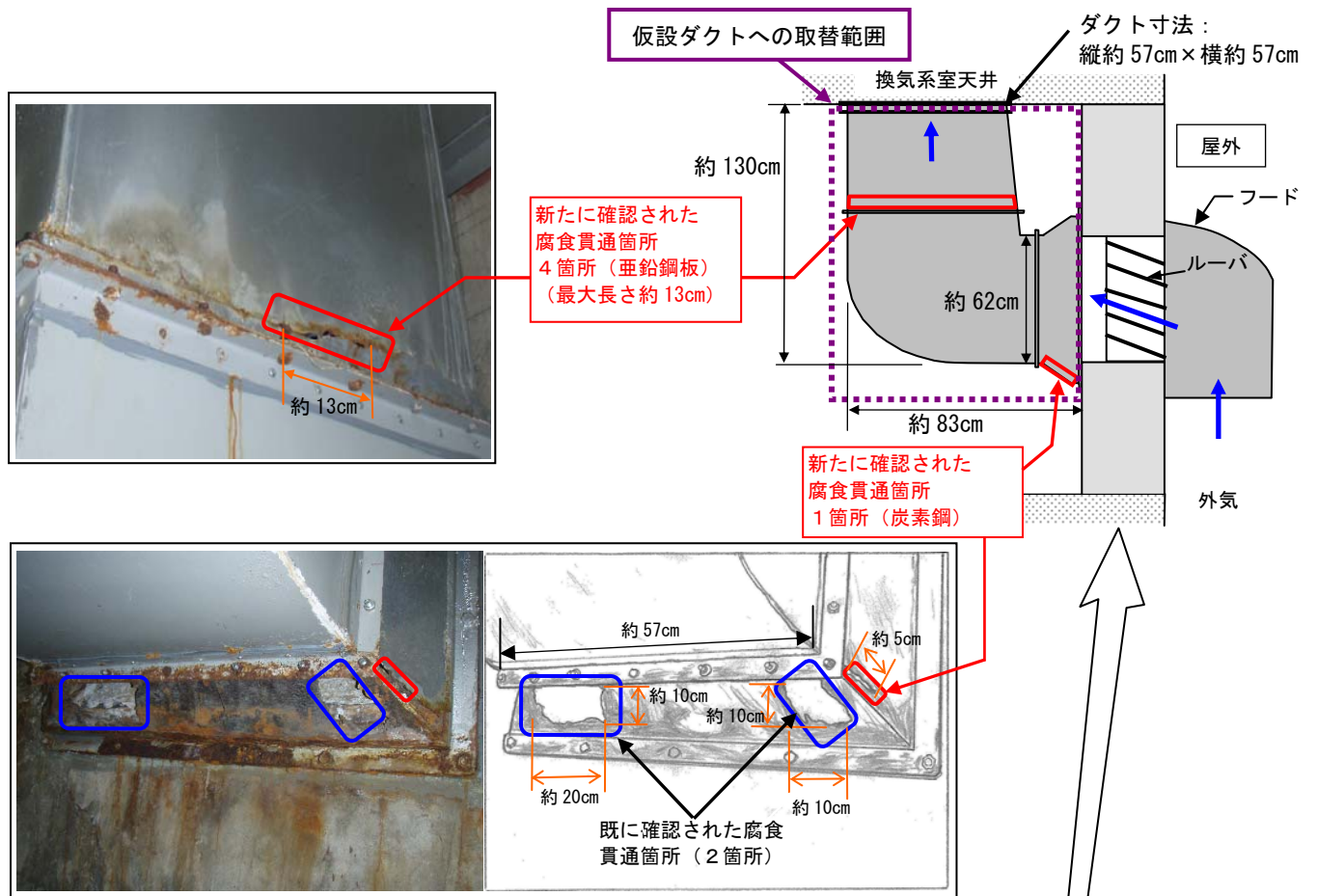
(経済産業省によるINESの暫定評価)

基準1	基準2	基準3	評価レベル
—	—	0+	0+

INES: 国際原子力事象評価尺度

以上

中央制御室換気空調系 系統図



- 注) ———: 通常運転状態を示す。
 ———: 非常時運転状態を示す。
 ———: ダクト
 A0 : 空気作動ダンパ
 手動 : 手動ダンパ